

水質環境保存及び対策(生活排水を中心に)

自治体名：大韓民国 忠清南道
発表者名：林 永默(イム ヨンムク) (大川中学校)
活動期間：2004年 6月 25～ 7月 6日
活動場所：大川中学校
活動人数：7人

○活動を始めた経緯

水質汚染に対する問題に接する中、TVや新聞または各種パンフレットのような媒体を通じて、生活排水が水質汚染の約68%を占めるという事実に驚き、この活動を始めるようになった。

○活動結果

周辺の水質汚染状態を調査して浄化活動を広げた。各家庭で生活排水を減らすために洗剤を減らすこと、生ごみを減らすなどの活動を展開し広報した。

○発表要旨

水は地球の約70%を覆っている。また、ほとんどの生物は水で成り立っていて、人体においても数多くの重要な生理作用を調節するなど、とても重要な役目をしている。さらに、家庭用水、工業用水、農業用水などとしても使われている。私たちにとって、まさに水がない世界は考えられないのである。ところで、今、世界は深刻な水質汚染に苦しんでいる。洛東江フェノール事件、日本のイタイイタイ病事件、水俣病事件、スイスのレマン号事件などさまざまな水質汚染による重大事件が発生している。

このような水質汚染防止のために私たちが出来ることは何だろうか？

まず、水質汚染について調べて見よう。水質汚染は生活排水、産業廃水、農畜廃水によって発生する。生活排水は約68%を占めているが、その中で洗剤、糞尿、生ごみなどが主な原因である。産業廃水は約30%で主に重金属が原因である。農畜廃水は家畜の糞尿が主要因である。

産業廃水や農畜廃水は浄化施設を通じて解決することができるが、生活排水は私たちが解決しなければならない。

では、生活排水を減らすためにはどんな対策があるかについて調べて見よう。

ア. きれいな水の大切さに対する認識を持つ。

- ①環境保護はまず私が実践する。
- ②私の家庭から水汚染を減らす。

イ. 小さな事から実践する。

- ①合成洗剤と使い捨て製品はできるだけ使わないようにする。
- ②浄化槽は年2回以上点検し、年1回以上掃除する。
- ③下水口や簡易沈澱池はひんぱんに掃除し、下水道の流入口や河川にごみを捨てない。
- ④食べ物の残物は別に捨てる。

ウ. 水質汚染の量を減らす。

① 食べ物

普通家庭で作る食べ物は、多くの過程をかけて料理をするのでBODが非常に高い。生ごみ破砕機を利用して生ごみを破砕してから下水道に流すことも、汚染発生の大きな原因だが、生ごみから出る汁も水質汚染に与える影響は大きい。また、残ったてんぷら用の油をそのまま捨てることは非常に大きい汚染の原因である。使った油は、必ず紙くずや新聞で拭き取ってからお皿を洗う。台所の換気扇のグリスフィルターをよく掃除することも水質汚染を減らすひとつの方法である。

② 合成洗剤

合成洗剤は、他の汚染物質と違い水にとけた状態で泡を作るので、微生物による分解が難しく、酸素が水中に溶けて入って行くことができない。

③ 有害化学物質

普通、有害化学物質と言えば、工場や化学実験室などを思い起しやすい。しかし、私たちの周辺にも有害化学物質と分類されるものなどが沢山発見されている。家庭で捨てた残りのペイント、靴磨き製品、下水口が詰まった時に使われる強酸性の各種の化学物質、便器洗浄剤、家具光沢製品など、これらの薬品を下水口に捨ててはならない。このような薬品は塩酸や洗濯用の苛性ソーダを下水口に直接流すのと同じくらいに有毒である。このような物質は、水の中で有機物を分解してくれる微生物を殺し、河川の自然自浄能力(自ら回復する能力)を低下させて、結局は水質汚染をもたらすことになる。

以上、各家庭で水資源保護のために努力して、私たちの子孫がきれいな環境の中できれいな水を飲むことができる環境をとり戻さなければならない。